

### 第3回大阪府環境審議会環境総合計画部会の概要

日 時：平成21年11月6日(金)10:00～12:00

場 所：大阪赤十字会館4階 401会議室

資料1（環境総合計画の基本的事項の検討課題（案））に従って、論点を整理した。  
各委員からの主な意見は、以下のとおり。

#### 基本となる視点

- ・「将来ビジョン・大阪」に掲げる新エネルギー構想は考慮すべき。
- ・広域的な環境施策の視点も必要。
- ・公害を規制していくという発想よりも、省資源・省エネルギーの街を積極的につくっていくという態度の方が大事になりつつある。

#### 計画の枠組み

##### <環境基本条例等との関係>

- ・環境基本条例や将来ビジョン・大阪などと整合を図るべき。

##### <計画期間>

- ・2050年を見通しつつ、2020年度までの10年間とすることが適当。
- ・5年後など中間段階での見直しが必要。

##### <計画の対象>

- ・経済活動や生物に県境はなく、近隣の府県と共同してやっていかなければならない。
- ・従来型の公害行政の延長上の環境だけの範囲ではだめで、流域横断的に社会構造を変えていくとなると、都市計画など連関する計画同士の重なり合いを整理していくべき。

#### 長期的な目標（大きな方向性） 整理が必要

- ・基本は、現行の「循環」、「健康」、「共生・魅力」、「参加」でよい。
- ・「参加」ではなく「行動」。また、この項目は他より上位ではないか。
- ・「持続可能性」や「継承」等、子孫に良好な環境を引き継ぐというキーワードが必要。
- ・自然との「共生」より「生物多様性」等がいいのではないか。

#### 施策の展開

##### <目標設定のあり方>

- ・数値目標をできる限り設定し、行動目標より成果目標を重視すべき。
- ・府民の目に見える形で少しずつ達成感のあるようなことを入れていくとよい。

##### <施策展開のあり方>

- ・大阪の2050年の姿を示すことと併せて、その目標に向かって短期にどのように積み上げていくか、両サイドから計画に示すべき。
- ・府民の行動と行政の仕掛けをうまく組み合わせる必要がある。

#### 計画の効果的な推進

- ・府民や環境NGOがチェックできる仕組みを検討すべき。
- ・府民にとって難解なデータを判断するのは難しく、府政への信頼とセットでなければ、批判的な目でしか見られない。